

博士課程

2019

授業科目 〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院  
芸術文化学研究所

## 授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

## 大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究 I	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究 II	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	22
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	23
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	24
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	25
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	26
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	27
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	28
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	29
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	30
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	31
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	32

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90250	民族芸術学特論	2単位 後期 (集中)	1・2	講義	石岡 良治 (非)

■テーマ 芸術からポピュラー文化に至る「イメージ制作」と人類の関わりを捉える。

### ■授業の概要

民族学・人類学的知見の蓄積により、人類の文化的営みにおいて「イメージ」が果たす役割の重要性が広く知られるようになっていく。造形芸術がイメージ制作 (image making) の観点から捉え直され、主としてヨーロッパや東アジアなどを対象とした「美術史」についても新たな光が投げかけられている。前近代における「民衆芸術」への関心や、近現代におけるポピュラー文化への関心などが、芸術学における重要な問いを構成するようになったのも、こうした文脈から理解することができるだろう。本講義はそうした状況を捉えるために、現代の様々な理論を概観した上で、民族学・人類学的観点から諸星大二郎や岩明均などのマンガ作品、高畑勲や宮崎駿のアニメ作品などを読解する。そのさい、「キッシュ」「マンガ」「絵馬」といった多様な対象に取り組んだ日本の美術批評家、石子順造の活動を手がかりにしつつ、彼が最晩年に「丸石神」への関心に至った歩みを批評的に再検証する。芸術的創造の問いを身近な場面で考えていきたい。

### ■到達目標

・民族誌・人類学やポピュラー文化などを通じた「イメージ」の役割の広がりについて学び、人類と「芸術」の関わりについて各自の関心と結びつけて理解を深める。

### ■授業計画・方法

- |  |   |
|--|---|
| 1. イントロダクション：イメージと人類                     | 9. ジブリアニメと「日本」：『もののけ姫』（宮崎駿）と『鳥獣戯画』起源説(高畑勲)の限界を考える |
| 2. ドイツ・オーストリア芸術学の現代的意義：<br>ウィルヘルム・ヴォリンガー | 10. 民衆芸術と消費文化                                     |
| 3. ドイツ・オーストリア芸術学の現代的意義：<br>エルンスト・ゴンブリッチ  | 11. 現代日本の創作における人類学的想像力：上橋菜穂子と都留泰作                 |
| 4. ジル・ドゥルーズの芸術学と現在のイメージ人類学               | 12. 装飾をめぐる：造形の「エッジ」と「テリトリー」                       |
| 5. 「オブジェクト」への思弁的関心とデザイン                  | 13. 石子順造の仕事：先史性、キッシュ、マンガ                          |
| 6. 諸星大二郎と人類学的関心 (1) 漢字文化圏を掘り下げる          | 14. 創造行為とイメージの分析                                  |
| 7. 諸星大二郎と人類学的関心 (2) 『マッドメン』と神話の構造分析      | 15. まとめ：文化の無底性に向き合うこと                             |
| 8. 人類の暴力と投擲：『寄生獣』とは誰か                    | 定期試験は実施しない。                                       |

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

・以下に挙げる「参考文献 (作品)」のいくつかに予め触れておくことが望ましい。その上で講義をふまえ、レポート課題に取り組んでほしい。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点+コメントペーパー40%、レポート60%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究所 (博士課程) の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 なし、ただし参考文献・作品のいずれかに触れておくこと。

□参考文献 石岡良治『「超」批評 視覚文化×マンガ』青土社

ウィルヘルム・ヴォリンガー (中野勇訳) 『ゴシック美術形式論』文春学芸ライブラリーの石岡良治による解題

石子順造『キッシュ/マンガ』小学館クリエイティブ

諸星大二郎『妖怪ハンター』『暗黒神話』『マッドメン』

岩明均『寄生獣』『七夕の国』『ヒストリエ』

都留泰作『ナチュン』『ムシユコン』

上橋菜穂子『精霊の守り人』

宮崎駿『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』

高畑勲『平成狸合戦ぽんぽこ』『十二世紀のアニメーション』